

## 島根県産鉱物 (1)

横山 鼎\*

### Notes on minerals of Shimane Prefecture, Japan (1)

Kanae YOKOYAMA

#### 松江市馬湯産重晶石

宍道湖から流れ出た大橋川が中海に入る所に、馬湯の地がある。この集落の南側、竹矢との間にひろがる丘陵地の一角に住宅団地が造成され、八幡団地と呼ばれている。この団地の北東隅附近において、頁岩中に重晶石の産出するのが見られる。

この重晶石は、昭和45年頃、当時この附近を調査中の永島晴夫により注意されたものであるが、この周辺に分布する松江層中の頁岩に、幅数ミリメートルの白色細脈をなしたり、菱型をなす自形の結晶が、底面を平行にして頁岩の劈開面に生じているのが認められた。その後筆者も数回採集におもむいたが、残念ながら細脈をなして著量に産するような箇所は認められなかった。現在もこの露頭は残っているが、肉眼で見出すのは困難かと思う。また既に人家も建ち、庭先の崖となっている所もあり制約を受けよう。因みに、肉眼的に認められなかった拳大の岩塊からも、打砕して簡単な水篩いによって、容易に十数個の結晶を得た。この頁岩は植物化石を伴い、エビの化石を産したことで知られているが(大久保;1975)、重晶石は植物化石と関連して産するようであるので注意したい。このような植物化石を顕著に伴う泥質岩から、重晶石が自形の結晶をなして産出する例は、広島県庄原市の七塚原にある(横山;1974)。なお、附近の地質については宮嶋聖隆他(1972)を参考にした。

さて、重晶石結晶は001面と110面よりなり、001面に扁平な菱型をなしているが、大きくても径1~2ミリメートル程度であり、多くは顕微鏡の大きさである。110 $\wedge$ 1 $\bar{1}$ 0の面角は78°22.5'であるが、この角度を鏡下において検することができ、同定は全く肉眼的におこなった。標本の写真を第1図に示したが、平行連晶を

暗示する様な頂角の部分にきれ込みの観察されるもの、はっきり双晶と考えられる集合結晶、双晶ではないが、何等かの規則性をもつと考えられる集合結晶も見られるが、結晶が微細であることもあって、詳しい研究は行っていない。なお本鉱物はその自形の明瞭なこと、細脈をなすことなどから、自生鉱物として結晶したことは明確であるが、細脈が層理面をきることから考えると可成固化して後のことと思われる。

終りに本鉱物を見出され、かつ種々御教示を頂いた永島晴夫氏に、深甚の敬意と謝意を表する。

#### 八雲村若松谷産菱鉄鉱

島根県八束郡八雲村には、出雲一の宮である熊野神社が鎮座するが、この南々東、能義郡との郡境をなす天狗山は、標高610.4m、古代よりの信仰伝説のまつわる山である。この天狗山に入る若松谷には林道が開かれているが、若松川沿いに谷の奥に入った林道が、西側の尾根沿いに登り、尾根の端を廻り西斜面にてた附近において、花崗岩質岩石中に発達する変質粘土脈の細脈に菱鉄鉱の産出が認められた。

母岩の花崗岩質岩石は、不均質な変化を示す細~中粒黒雲母花崗岩で、時に花崗斑岩状となる。いわゆる松江湾入部の縁辺にあたり、湾入部に分布する新第三系の基盤岩の一部をなす(山陰グリーン・タフ団体研究グループ;1976)。菱鉄鉱を産した変質脈は、われ目ともいえるような細脈で、そのごく一部に、母岩に附着するような状態で晶出していたもので、水晶の共生が見られる。この場所では、他に菱鉄鉱を認め得なかったが、若松谷の支谷で、酸性凝灰岩の巨大な転石の一部に、やはり細脈をなすと考えられる菱鉄鉱の着生したものを観察したので、この周辺には新第三系の火成活動に伴った、かかる菱鉄鉱の産出の可能性が大きい。

採集し得た標本はわずかに数片であったが、色はチヨ

\* 島根大学理学部地質学教室 Department of Geology, Faculty of Science, Shimane University.

コレート色で、菱面体をなす結晶が明瞭である。菱鉄鉱によく見られる結晶面の湾曲もよくわかる結晶もある。時には径数ミリメートルの球顆もつくっている。また簇生したものには、平行連晶、双晶等の錯雑した関係も予想され、その集合状態には興味をよぶものがある。結晶の大きさは、独立した単結晶でたかだか数ミリメートルである。標本の写真を第2図に示す。

島根県下において、菱鉄鉱の産出は、大森鉱山がよく知られている(伊藤・桜井;1947)。また新第三系の火山岩類の空隙には、球顆をなして産することがよくある。例えば、少量ではあるが、多伎町後畑などである(横山;1965)。しかし、自形結晶の見られる例は数少ないと思ひここに記した。ごく最近、この若松谷のものより、はるかに見事な標本を採集し研究中であるが、やはり一つの産地として大切であろう。

本鉱物は、昭和55年夏、この若松谷附近で行った実習の際に見出されたものであり、実習に同行された、本教室の飯泉滋助教授、ならびに実習に参加された学

生諸君には種々お世話になった。厚く御礼申し上げる。

## 文 献

- 伊藤貞市・桜井欽一(1947);日本鉱物誌第三版上巻, 253~255, 中文館書店, 東京.
- 宮嶋聖隆・永島晴夫・大西郁夫(1972);松江市周辺の地質, 島根大学文理学部紀要, 理学科篇V, 131~138.
- 大久保雅弘(1975);松江層のエビ化石, 島根大学山陰文化研究紀要, 15, 211~216.
- 山陰グリーン・タフ団体研究グループ(1979);松江市南方の下部および中部中新統の陥没盆地, 地質学論集, 16, 33~53.
- 横山 鼎(1965);島根県簸川郡多伎村後畑産鱗珪石, 島根大学山陰文化研究紀要, 6, 31~41.
- (1974);広島県庄原市七塚原産重晶石, 日本鉱物学会年会, 講演要旨.

第1図 (図版上) 重晶石の結晶 一般に白色を呈する。時に透明なものもある。大きさは、写真中の最大のものの長径が0.3ミリメートル位である。松江市馬潟産。

第2図 (図版下) 菱鉄鉱の標本 左上の菱面の一辺が0.3ミリメートル位の大きさである。八雲村若松谷産。

島根県産鉱物(1)

